

大阪城

2025
2/13
(木)
14519
号

全港湾
西成令云

224
6647-
4947

春にむけて、三寒四温の流氷に入ってきている。
花粉も舞はじめてきて、目やノドがやられたり
する。身体も春をとらえはじめているようです。

経済社会では、関税貿易戦争に火がついてきた。
鉄アムニに25%の関税をかけるトランプがいいだして、
先日、石破首相が首脳会議で友好的になり、外交が
成功したとかいっていたが、経済はバタバタしそうです。

地下鉄動物園駅あたりに、大きなトランクをゴロゴロ
ひっぱっているインバウンド。訪日客であふれているが、

昨年の訪日客の旅行収入は5兆8973億円だという。
一方、目には見えないが日本人が、スマホやインターネット、
パソコンをさわり、その利用の金をアメリカIT巨大企業
はらっている金は、昨年6兆4622億円だという。

アメリカは、日本との貿易が赤字なので、関税をかける
とっています。人工知能AIなどは、使えば使うほど
利用料が目に見えたりがアメリカにすいとりかえりく構造
にはまっています。中国では20人ほどの小さな企業が

ディープシーク(中国では「深度探索」という人工知能AIを
つくり上げて、アメリカのAIにまけない性能をもつと

評価されています。日本の科学力は、アメリカ、中国に
大きく遅れています。科学の基本のところから考えなおす
現状にあります。多くの課題をかかえて、アメリカ発の
関税貿易戦争が始まり、経済生活をやり直さないと
いけない、
そうです。

開幕まで2カ月大阪万博ご難続き...

入場券販売不振で“政敵”に泣きつき、海外パビリオン完成もわず か数カ国どう決着つけるのか(C)共同通信社

4月13日開幕の大阪・関西万博の入場券を巡り、吉村府知事らが石破首相と面会し、購入手続きの簡略化などを直談判。開幕前から見られるで万博の入場券は、事前予約が原則。公式サイトで購入する場合、ID取得や来場日時の指定、パビリオン予約などが必要で「煩雑すぎる」との指摘が国内外から上がっている。目標1400万枚の前売り券販売は低迷し、1月29日時点で約767万枚。昨年10月10日に経済界の負担分700万枚を超えて以降、積み増したのは10%に満たない。目標に達しなければ収支は赤字一直線。ダサイ」の一言。

「循環型社会の理念に逆行」と識者バツサリ

そもそも入場券が売れないのは、手続きの煩雑さだけが理由ではないだろう。参加国が出展する海外パビリオンは「万博の華」だ。ところが、参加47カ国が自前で建てる「タイプA」の工事は遅れに遅れ、いまだ数カ国しか完成していない。1月中旬に全ての海外パビリオンの工事が内装・展示を含めて完了していたはずが、今も絶賛工事中です。間もなく開幕まで2カ月。2～3月は戸建てやマンションの仕上げ工事が殺到する時期と重なり、職人不足も予想されます。10カ国を超す海外パビリオンが、外装の完成で済ませる『見切り発車』となりかねません。しかも会場の夢洲は軟弱地盤で難工事。総工費2350億円を投じて完成させても、わずか半年の会期後には全てのパビリオンをブツ壊すのです。『循環型社会を体現する』運営の理念にイベントそのものが逆行しています」(建築エコノミスト・森山高至氏) 万博なんて「やっている場合か！」という国民の意識との乖離こそが、販売不振の元凶である。(yahoo-news

)